

インフルエンザ予防接種 費用の一部を助成します



新型コロナウイルス感染症予防のためにも、インフルエンザの流行期も引き続き感染予防を心がけましょう。

接種期間：10月23日（月）～令和6年1月31日（水）

注意：前後に肺炎球菌ワクチン、带状疱疹ワクチンなどのワクチンを接種する場合は、原則13日以上間隔をあけてください。（※ただし、新型コロナウイルスワクチンとの間隔は問いません）

65歳以上

個人あてにインフルエンザ「受診券」を送付します。
医療機関に「受診券」「予診票」を持参し、接種してください。
医療機関によっては予約が必要です。かかりつけの病院へご連絡ください。

▼自己負担額

65歳以上	1,000円
-------	--------

※生活保護受給世帯の方は無料

1歳以上65歳未満

世帯ごとに「助成券」を送付します。（予診票は各病院にあります）

▼助成券が使用できる医療機関

医療機関名	電話番号
日野病院・黒坂診療所・二部診療所	0859-72-0351
江尾診療所	0859-75-2055
日南病院	0859-82-1235



上記以外の医療機関で接種する場合は、接種後、役場（または黒坂支所）へ申請を行ってください。
自己負担額を除いた接種費用を助成します。

▼申請に必要なもの

- ①領収書 ②接種済証または診療明細書など（ワクチン名が記載されていれば領収書のみでも可）
- ③母子健康手帳（子どもの場合）
- ④口座番号がわかるもの

▼申請場所 役場健康福祉課または黒坂支所

▼申請期間

10月23日（月）～令和6年2月15日（木）まで

※接種期間以外で接種した場合は、助成対象となりませんのでご注意ください。

詳しくは、助成券とともに配布する案内をご覧ください。

▼自己負担額

年齢※	1回目	2回目
1歳以上13歳未満	500円	500円
13歳以上19歳未満	500円	
19歳以上65歳未満	1,000円	

※令和5年12月31日時点

※生活保護受給世帯の方は無料

▼ハイリスク者は、より積極的に接種を受けましょう

ハイリスク者は、インフルエンザにかかると重症化したり、肺炎を合併する危険性が高くなります。
医師と相談の上、積極的にワクチンを接種しましょう。

⚠️ 主なハイリスク者

- 高齢者
- 心臓病、高血圧、糖尿病、腎臓病、COPDなどの持病がある人
- 肥満 ●妊婦 ●乳幼児 など

【問合せ先】町健康福祉センター（電話 72-1852）

増えている心不全 その1 あなたの心臓 大丈夫？

日野病院 病院長 孝田 雅彦



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

休まず働いている心臓 働きの低下で心不全に

平地でも少し歩くと息切れがする、足がむくんで治らない、などの症状はありませんか？ そう言えばと思いがたることがあれば、心不全の可能性があります。それでは、今回は心不全についてお話しします。心不全とは、血液を全身に送るポンプの働きが低下した状態です。心臓は1分間に60回打つとすると1日で86,400回（＝60回×60分×24時間）、1年で3千万回、70歳の患者さんは22億回打ったこととなります。この間、心臓は全く休まずに拍動し続けています。

高齢になるほど、心臓の働きは低下しやすくなりま
すし、高血圧や糖尿病などの生活習慣病があったり、心筋梗塞、不整脈、弁膜症などの心臓病があると、心不全は起こりやすくなります。

症状によって分かれる 心不全4つのステージ

心不全の進行は4つの段階に分けられています。ステージAは生活習慣病がある段階、ステージBは心臓の働きが低下してきた段階ですが、まだ症状はありません。ステージCは心不全の症状が出た段階、ステージDは症状が悪化し、日常生活が困難となる段階です。多くの患者さんはステージCで診断されますが、治療はステージBから始める方が良く、予防はステージAから必要です。ステージA、Bは症状がないのに、どのように診断すればいいのでしょうか。

ステージA、Bには、高血圧や糖尿病などの生活習慣病のある人や、これまで何らかの心臓病を指摘された人がすべて含まれます。それでは、ステージAとB

はどのようにして区別できるのでしょうか。それには、心臓の働きを調べる検査が必要となります。その検査は血液検査、超音波検査、胸部レントゲンあるいはCT検査です。

負担なく詳しく 調べられる超音波検査

体に負担なく、詳細に調べることができるのは超音波検査です。まず血液でNT-proBNPという検査を測定し、胸部レントゲンで心臓が大きいか調べましょう。どちらかでも異常があれば超音波検査を受けてください。これまで何らかの心臓病のあった患者さんは超音波検査を定期的に受けましょう。

超音波で調べると心不全



にも2種類があることがわかります。1つは駆出率（血液を送り出す力）が低下した人、2つ目は駆出率は正常だけれど、拡張機能が低下したために血液を送り出すことができなかった人です。この2種類の心不全患者さんの生命予後（生きられる期間）は、どちらも心不全がない人と比べて低下していますが、治療方法が異なるため、ぜひ調べる必要があります。

ステージBまでに治療を開始すると心臓は負担が少なくなり、長持ちします。今しんどくないからなどと、言わずに、一度主治医と相談して自分の心不全のステージを聞いてください。転ばぬ先の杖、治療は早いほど効果が高いのです。

